

第2次那須塩原市総合計画 第7回 審議会

開催年月日：平成29年1月26日(木)

開催時間：14時00分～15時45分

開催場所：那須塩原市役所西那須野庁舎301～303会議室

委員

No.	氏名	出欠	No.	氏名	出欠
1	阿久津 裕		16	佐藤 幹雄	
2	網代 用子		17	佐藤 由紀子	○
3	安宅 勝	○	18	澤田 友喜	○
4	伊澤 昭夫	○	19	相馬 賢市	
5	石下 かをり		20	高久 結理	
6	薄井 海雄	○	21	高松 英樹	○
7	榎本 建司	○	22	西田 由記子	○
8	大島 三千三	○	23	樋山 則男	○
9	大野 昌弘	○	24	平山 博	○
10	菊池 太輔	○	25	村山 茂	○
11	君島 章男	○	26	室越 礼一	
12	君島 正三	○	27	目黒 ケイ子	○
13	君島 将介	○	28	柳場 美枝子	
14	君島 理恵	○	29	山島 哲夫	○
15	越石 直子		30	渡邊 亮	

1 開会

2 会長あいさつ

3 議事

【会長】

それでは議事に入りたいと思います。

はじめに（１）第２次那須塩原市総合計画（原案）について、事務局から説明をお願いします。

（１）第２次那須塩原市総合計画（原案）について

（資料１及び資料２について事務局説明）

【会長】

ありがとうございました。前回から色々なご意見を頂いて、一つ一つ整理をして原案になっております。この修正内容につきまして、ご質問やご意見がありましたらお願いしたいと思います。

【委員】

細かいところで申し訳ありません。資料２のNo.11の「出会いの創出・新婚生活を支援する」の目標値について、目標年度で累計３００組ということですが、他の指標と区別して、累計であることが分かるように記載したほうがよいのではないかと思います。

【会長】

ありがとうございます。ではこれは累計３００組というように修正をお願いします。

【副会長】

112ページの「現状」のT P Pの記載について、これはこのままでよいのでしょうか。

【会長】

実質T P Pが難しくなっているという状況で、このまま進むというような記載は避けたほうがよいかと思います。

【事務局】

部門別計画におきましてT P Pの表現があったものがあり、庁内で表現を整理して3月に議案として提出するということになっておりますので、総合計画におきましても修正させていただきたいと思います。

【会長】

議会にかけるまでに修正するということですが、修正部分をまた審議会で議論するわけにはいきませんので、ここは修正されるということを委員の皆さんにはお含みおきいただき、内容が変わるということではございませんので、これで答申として出すということによろしいでしょうか。

【委員】

資料2のNo.7の「男女の人権尊重と暴力の根絶を推進する」で「夫婦間における『平手で打つ』を暴力として認識する人の割合」という項目を指標としていますが、これは指標にするようなものではないと思います。夫婦間であっても「平手で打つ」というのは暴力として当たり前であり、それを指標として設定するのはいかがなものかと思いました。

例えば、DV防止のための相談員を増やすとか、シェルターを作るとか、または件数を減らしていくといった数字のほうがよいのではないのでしょうか。この指標だと、那須塩原市が遅れているような印象を受けてしまうので。

【会長】

アンケートでは3割の人は平手で打ってもよいと思っているわけで、そういったことを無くしたいというのが市の思いということですが、いかがでしょうか。他の指標の設定がなかなか難しいとは思いますが。

【事務局】

総合計画では、これまでは具体的な施策に指標を設定していませんでした。今、国でも計画についてはできる限り指標を設定し、目標を作って進めていくという方針であり、今回第2次総合計画を作るに当たり、指標の設定について検討いたしました。

その中で、この指標が適当ではないのではないかとということですが、啓発という中で、全ての人に暴力であると認識していただきたいということで設定したものです。

また、関連する計画ということで「第3次男女共同参画行動計画」あるいは「第2次配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する基本計画」ということで、市民協働推進課や子育て支援課で策定している計画、こちらで同じような指標を使っており、これと合わせた形で、他に適当な指標がなかったということで掲載させていただきました。

【会長】

内容についてはよいのですが、文書の表現で工夫ができないか。

アンケート調査ではこのような聞き方をしているのでしょうか。

【事務局】

アンケート調査の項目としてこのような聞き方をしています。

【会長】

アンケート調査での項目をそのまま指標とすることもないのですが、「直接的な行為をすると暴力として認識するか」というような、すこしゆるい表現のほうがよいということでしょうか。

【委員】

私は、この項目自体が指標になるのかな、と感じました。本来100%であるものですから。

【会長】

7割しかないという現状をちゃんと全員が認識するようにしようというのは啓発の効果で、指標としてはいいのですが、この「平手で打つ」という直接的な表現がどうか。

【委員】

このことを指標として取り上げるのであれば、表現は決して間違っていないとは思いますが、もう少し女性目線というか。ちょっといいアイデアがないので考えていただければ。

【委員】

ちょっと表現が芳しくない気がします。

【会長】

委員はそもそもこの指標が適切かというご意見ですが、私や他の委員からすると、指標はいいのですが表現がもうちょっと何かないかなと。あまりに具体的に書いてあるので。

【委員】

白黒はっきりし過ぎる感じがします。

【会長】

現実に7割の人しか認識していないので、100%になってほしいのですが、例えば「口の暴力」などもある。「平手で打つ」と書くと「げんこつ」はいいのか、「押して倒す」というのはどうかなどとなるので、「身体的に打撃を与える行為について暴力として認識する」などとしてもよいのではないのでしょうか。

【委員】

私はこの男女共同参画行動計画を策定する際にも参加していたのでニュアンスは分かるのですが、ずっとこの指標で経過を見ていて、平手で打つことを暴力として認

識する人の割合はそれほど急激に上がってなくて、平成33年度で100%自体がけっこう難しい指標だと感じました。

この指標は「平手」であることに意味があって、『げんこつ』を暴力だと認識する人の割合」としたらもっと数値が上がると思います。ところが「平手」とすると、それ自体が暴力と認識されないのので、この指標を使っているのだと思います。啓発という意味では、直接的かもしれませんが、今までの経過を知っていると、このような指標になるのかなと思います。

簡単なようでいて、非常に達成が難しい指標ではないでしょうか。そもそもDVが男性から女性とは限らないです。

【委員】

「平手で打つ」が68.8%ということで、この表現を変えることでこのパーセントが変わってしまう可能性があるとする、ここで変えてしまうのは難しいかと思えます。

【委員】

この指標をここに挙げるかは別として、「平手で打つ」という行為について、テレビのドラマで平手で打つシーンがクライマックスで出てくることがあります。夫婦間でも親子でも。それがとても違和感があったんです。そのような表現をしないと思いが伝わらないんだというくらい、家族のトラブルや、そうでない場合でも平手打ちを使っている。そうしたの、その行為が一般的に受け入れられているからであり、そのような表現方法になったのでしょうが、本当は暴力だと思いますので、あえてここで指標として挙げて、そういった風潮はやっぱりおかしいんだというように啓発する意味もあるかと思えます。

【会長】

この審議会には暴力をするような方がいないのでなかなか分かりにくいとは思いますが、女性の方にお話しを聞いていくと、指標としてここに取り上げるのはいいという意見ですが、男性の意見では、表現が直接的と感じる方もいらっしゃる。

指標として「これを暴力と認めるかどうか」ということが必要であれば、アンケートでも直接的な表現をしているということもありますので、このままこの形で載せるということでもよろしいでしょうか。

では、これはこのまま載せるということにしたいと思えます。

【事務局】

先ほど説明の中で足りなかった部分があるのですが、今回の指標は、できる限り数値で表せる指標を作っています。先ほど「相談の回数」などを載せたほうがいいのではというご意見もありましたが、具体的な施策を取り組んだ結果として、将来的にどのようにしたいのか、というものを目標値として指標設定するという考え方で作って

おります。数値化が難しいものもありましたが、今の議論の場合は、セクシャルハラスメント防止のための相談会を何回やりました、研修会を何回やりましたということが最終的な成果ではなく、そういったものを行ったことによって身体的な暴力が減りました、暴力として認識する人の割合が減りました、という考え方で指標となっております。

【委員】

102ページ「出会いの創出・新婚生活を支援する」のマッチング件数を300組にするという指標ですが、マッチングとはどういった意味でしょうか。

【事務局】

県のほうでも結婚相談の支援センターを開設しましたが、そちらで目標として掲げているのはマッチング件数で、成婚数ではありません。まずは「出会いの場」を創出するというので、県が目標としているのが年間1,000件です。人口規模なども考慮すると、那須塩原市の場合は年間60件のマッチングということになりまして、5年間の累計で300組という指標になっております。

【会長】

ほかにございますか。後で全体的な感想などは伺いたいと思います。

この内容につきまして前回から修正して、このような形になりましたが、一つ「T P P」については状況によって修正するというのを含めた上で、この形で審議会の原案ということよろしいでしょうか。

ありがとうございました。では、一部修正があるということですが、これを承認することにしたいと思います。

それでは(2)のその他ということで、今後のスケジュールなどについて説明をお願いします。

(2) その他

【事務局】

今後のスケジュールでございますが、ただいまこちらの原案につきまして、若干の修正はございますが承認いただきましてありがとうございました。承認いただいた原案につきまして、審議会として市長に答申いただくということになります。答申につきましては、また委員の皆様にもこのようにお集まりいただくというのも日程的に難しいところもございますので、審議会を代表して会長に答申をお願いできればと考えております。市長のスケジュール等の関係もございまして、調整して近日中に実施させていただきますのでご了承いただければと思います。

【会長】

事務局から説明がありましたが、私のほうからできるだけ早く市長に答申をお渡ししたいと思います。これからまたご意見をお伺いしますが、そういったものも踏まえてお渡ししたいと考えております。

答申書としてはまとまりましたが、これから那須塩原市をどうしていくか、この計画をどう進めていくか、あるいはこの審議会に参加してのご意見、ご不満などあるかと思えます。せっかくでございますので、できるだけ幅広く皆さんからご意見を伺いたいと思えますが、そういった中で、必要な話につきましては、市長にもお伝えしたいと思えます。

【委員】

107ページ「中心市街地を活性化させる」の指標で「滞在時間1時間以上の割合」とありますが、駐車場も十分ないと滞在にはなりません。あの辺りは規制も厳しいので、それを緩和するというのも必要かと思えます。

また、115ページの「畜産業を活性化させる」で「地域ブランド和牛の生産拡大」とありますが、消費の拡大も当然必要です。牛乳で乾杯条例もありますが、消費する方法も検討していただければと思えます。私は「牛乳ドーム」というのが持論ですが、明治の森の道の駅にドームを作って、那須、塩原、板室温泉の来訪客を抱え込み、そこに行けば牛乳やチーズがあるということで、そういったものがあればいいと思えます。牛乳の消費拡大ももう少し取り組んでいただければと思えます。

【会長】

ミルクの話は市でも「ミルクタウン戦略」というものを作っています。本州一の生乳生産の市ですから、これは貴重な産業です。ちょっと調べたのですが、那須塩原市の生乳産出額は農業産出額の半分くらいを占めているということで、那須塩原市としては重要な産業です。総合計画ではこのような記載ですが、関連する計画としては色々なものがあります。

【委員】

計画はこれで進んでいくと思えますが、先ほどのTPPの話などもあるように、これから読み切れない部分もあると思えます。時代が急に変わるかもしれない。先が読めない部分もありますので、計画に従って進めばいいなという期待はありますが、不安材料も多いので、じっくり考えて進めたほうがよいかと思えます。

【会長】

状況に応じて見直しというのは、必要があれば出てくるだろうと思えます。

【委員】

本日が最後かと思ひまして参加させていただきました。大変立派なものできて、

これ以上追加するものはなく、あとは表現の問題が残っているくらいかと思います。

一つ気になったのは、基本施策のほかに「重点プロジェクト」が4項目あり、最後の「県北の中心都市にふさわしいまち」の中に道路の整備ということで合併前からの道路が載っていますが、他にはないということなのでしょうか。

【会長】

これは、今やることが決まっているものは書けますが、決まっていないものは書けないということです。必要があればまた書くものも出てくるでしょうし、場合によっては中止する可能性もあるということです。

【事務局】

162ページに記載している市道新南・下中野線は西那須野から島方まで抜けていくもので、これは合併当初に計画した路線が進んでいないような状況ではありますが、この重点プロジェクトにおいて、那須塩原駅のほうに向かってくる道路として載せています。他の道路整備については91ページで「主要幹線道路の整備」であったり「生活道路の整備」であったり「歩道の整備」と、この路線だけではなく予定しているものもあります。これについても「関連する計画」として総合計画と併せて策定している「道路整備基本計画」があり、パブリックコメントでも公表しているものがありますが、新南・下中野線以外の路線も盛り込んでいます。今までよりは財政的な部分で規模が小さくなっているところもありますが、これ以外の路線も進めていく予定であります。

【委員】

那須塩原市の未来のあるべき姿を描く計画だと思っています。

113ページに「農林業を活性化させる」という施策があり、その中で農振農用地の面積が目標年度までで減るというようになっています。これは意図的に減らすということではなくて、市が発展していく中では、農用地が必然的に減っていくのではないかと目標値の設定の仕方が、それぞれの部門では出てくるかと思っています。計画だからすべてがプラスに進むということではないと私は思っています。目標値で細かいお話が出ましたので、そのように解釈すればよいかと思っています。

私の立場からすれば「優良農地の保全」ということですので、減っていくのはいかなものかと発言したいのですが、総合計画の中ではそうではなくて、将来の那須塩原市を描いた場合、部門によっては必然的に減少する場合があります、ということです。

今日まで7回にわたりまして、検討されてきました基本構想、前期基本計画、これらの達成率の向上にむけて、これから実施計画が立てられるかと思っていますので、しっかりとした進行管理を望みます。

【委員】

国際交流協会の代表として出ておりますので、その部門の願いをしておきたいのですが、当然行政としては、今までも市民団体や色々な関係団体の協力によって、連携してまちづくりを進めてきたと思いますが、ますます市民協働、参画社会ということで、市民あるいは地域の団体や関係者をいかにまちづくりに巻き込んでいくかということが大切かと思えます。実施計画、これからの年度年度の計画で行政の持っているアイデアを市民に提供して進めていってほしいと思えます。

また、コミュニティの会長もやらせてもらっていますが、自治会の未加入者が増加しているのが事実です。これを解決していくには、なかなか単位自治会では難しいものがあります。補助金とかではなくて、行政の多くのネットワークを駆使して、何を支援してもらえば自治会の加入率が上がるか、これは大きなテーマだと思います。そして、みんながそれに協力して作っていく一つの地域、それこそ指標になっていくのではないかと思いますので、ぜひ自治会離れを食い止める施策を、親身になってご支援いただきたいと思います。

【会長】

101ページの「自治会への加入を促進する」では目標値で70%としています。これをやるのは結構大変なことだと思いますが、この計画に沿って進めていってください。

【委員】

この総合計画に基づき、細かい部分が実行されていくのだと思いますが、実行されていく中で、民間の企業や市民が関わってくることになります。その時に、縦割り行政、日常の業務において横の繋がりが感じられないということがあります。どこの自治体でもそうですが、そういったことのないように、どこにいてもスムーズに、それはあちらで聞いてくださいと言うのは簡単なんです、それをされるといわゆるたらい回しになってしまうので、ある程度どこでも分かるような施策にしてほしいと思えます。

【会長】

市全体の政策を総合計画として統括して、他の色々なものがついてくるということになりますが、総合計画を作ることで市全体がまとまっていくという一つのきっかけにもなります。これを全体の基準として、連携を取っていただければと思います。

【委員】

私もこの原案は素晴らしくできあがったと思っていますのでどうということはないのですが、今回総合計画審議会に参加させていただいて、自分の知らない範囲がこんなにも多かったということと、30人の委員の方からの色々な角度からの指摘や考え方が、とてもよい勉強になったと感じています。実際これからプロジェクトが進ん

でいくと思いますが、日本全国で人口減少していく中で、人口を増やそうというのはたぶん不可能に近いことだと思いますが、那須塩原市にずっと住んでいて、交通の便もいいし、住んでもいいし、食べてもおいしいしということがあるので、ぜひオリジナリティのある進め方をしていただけたら、農業も商業も色々な分野で魅力ある市になっていくと思いますので、例えば日本のどこかでやっているから真似しようではなくて、那須塩原ならではの、交通の便だったり自然だったり、色々な魅力ある部分を生かして取り組んでいただけたらよいと思いました。

【会長】

指標にもありましたが「那須塩原市を推奨したい」という率を上げる、ということだと思います。

【委員】

住んでいる若い人たちが魅力を実感できていない、というのもあると思います。その年代にPRできれば、市から出ていく人を減らせるかだと思いますので、オリジナリティある、魅力ある市になってほしいと思います。

【会長】

これはここにいる人みんなの願いでもありますので、ぜひ積極的にPRして、推奨度を上げていただけたらと思います。

【委員】

ようやく総合計画がまとまって良かったと思います。難しい会議だったので、出席するのに二の足を踏んでいたというのが実際のところですよ。

私は市の環境部門でも委員になっており、3月にレッドデータブックが市単位としては全国でも最先端のものができ上がるので、非常に期待しております。それを基にして、自然環境を保全する、那須塩原市が自然と共生するということを一番に挙げてもらっているのだから、それを実行し、日本でも先端となるような自然保護ができる市であることを望んでいます。そのベースとなるレッドデータブックが3月にできくと思うので、今後の自然保護に関しては少し期待しているところです。皆さんの力が絶対必要ですので、よろしくお願いいたします。

【委員】

色々な方々のお骨折りがあり、本当に素晴らしいものができたと思います。

私は那須塩原市の消防団長として、常日頃、我々消防は市民の生命財産を守ることがをモットーに対応しているのですけれども、そういう中で常に言うことは、異常気象のせいかもしれませんが、突然の災害がくる、雨にしても普通の気圧の流れではなく、ピンポイントでくる。地震等もそうですが、熊本は一番地震が起りにくいと思われる場所であるような目にあうということで、消防団は災害時にいち早く駆け

つけなければならないという考えは持っています。

先日市長に、市役所の職員、新人の採用者は例えば5年、消防団に加入してもらえないかというお願いをしたのですが、市役所からそういうところを見せていただいて、各地区の部長は人を見つけるのがとても大変です。市で誠意を見せていただければ、団員を勧誘する際にも確保する際にも、理由づけができるのではないかという話をしたのですが、消防団は5年勤めていただければ退職金もでますので、最低5年くらいはということで市長とも話をしました。

何かあった時には消防団の活躍する部分が多いと思うので、皆さんにもご協力いただいて、消防団員がやりやすい状況を作っていただければと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

【委員】

役員改選に伴う途中参加ということで、中々スケジュールがなく出られなくて、出てきましたら立派な原案ができているというところなのですが、あとはいかにこの計画どおりできるかということが今後の課題になってくるかと思います。観光協会を代表してきておりますが、我々市民も積極的に参加しまして、計画どおりに進めていきたいと思います。今年からJRのプレDCも始まりまして、来年DCということで多くのお客様がこちらの地に来てくださると思いますので、観光に対しての品質の向上を図りまして、一度塩原温泉、板室温泉にいらしたお客様が、那須塩原に来て、こんないい所だったというのが定住促進にもつながってくるのかと思いますので、今後とも品質向上に向けて頑張っていきたいと思います。

【委員】

前回の第1次の時から関わらせていただきまして、とても勉強させていただきました。自分たちの知らないことがこんなにもあるのかという意識につながりました。

私も一番申し上げたかったのは、先ほど他の委員も仰っていたように、縦割りではなく、市の横の組織作りを今後心がけていただきたいなと思います。黒磯の本庁に行くと、いつも正面にどなたかが立ってらっしゃいますが、あれが本当にいいと思います。いつも誰かがあそこに来てくれて、そこに行けば教えてくれるという、那須塩原市コンシェルジュ課というようなものを作っていただいて、そこにまず市民に向けての大きな窓口、いつでもウェルカムですよという窓口があると市民が市に対して親しみを感じるのではないかと思います。と申しますのも、先ほどのパブリックコメントも3人ほどご意見があったということですが、少ないと感じました。市が一生懸命こういった物を作られても、市民一人一人がこれに対して興味を持っていただかないと、どうにもならないのかなと思います。もしできるのであれば、表紙に、市民の方が市役所や支所などでちょっと手に取ってみたいくなるような、そんな素敵な表紙がつくといいかなと思います。

もう一つ、市の行政に申し上げたいのは、プロフェッショナルを育成していただきたいということです。どうしても市の担当の方が、2年、3年ですぐに異動になって

しまいますと、せっかく親しくなり話がしやすくなったなと思うと、まだ次の方ということで一からやり直しということがあります。観光行政でもそうです。色々オールラウンダーで育てることも一つですが、そういう方と同時進行でプロフェッショナルな若手の方の育成も一つだと思います。第1次の時の審議会では、事務局として確か部長クラスの方が並んでいらっしやったかと思うのですが、今回は若手の方が多く、非常に良いなと思います。若手の方がどんどん積極的に市の行政に関われる立場にあるということは非常に大きいことだと思います。

最後になりますが、先日下野新聞にシティプロモーションで小山市と那須塩原市が提携して、南都と北都という位置づけで手を携えてプロモーションしていきましょうという記事を見かけたのですが、とても良いことだと思います。「都」だと言うことで、私たちも「那須塩原市も結構重要な役割があるのか」というような意識が持てるかなと思いますので、これから「栃木県の北都」として頑張っていきたいなと思います。

【委員】

少し古い話になりますが、私がこういう審議会に関わるようになったのは、20数年前の、黒磯市の男女共同参画プログラムを作る懇話会でした。その頃も、審議会の男女の比率を35%くらいを目標にしていたと思うのですが、遅々として進まないなと思っています。それは、私が色々な審議会に出るということは、市で人材を発掘してないのではないのかなとも思います。もっと女性の人材を発掘して、審議会に出ていただく、あるいは出てくる部を変えるとか、必ず会長がでるのではなくて、副会長や実際に活動している方ができるようにするとか。地域活動をしていると、色々活躍している女性は多いので、そういう方がこういう場にどんどん出てこられるようなルートを作っていただく必要があると思います。

この原案ができたので今さらなのですが、審議会の女性のパーセンテージ40%というものがあり、これには男性が非常に多い審議会とか女性が勝っている審議会など色々あります。平均して40%ということですが、本当は「片方の性が40%を下回らない」という目標を持つべきだと思います。つい最近も、女性に関わる必要がある福祉の内容なのですが、何でこんなに女性が少ないのだろうという会議がありました。これからは目標値の作り方もそのような形で、対等に関われるという制度、仕組み、雰囲気、意識を変えていただきたいと強く思いました。

【会長】

この審議会は女性が3割ですが、会議の性格で関係者を入れるとどうしてもそうならないというものもあります。また、女性の率を高めていくと、同じ人ばかりになってしまうというものもあります。市役所でも、女性にたくさん入ってもらおうとしても色々な制約があり、例えば私の大学でも女性の教員がいますが、女性の教員が少ないとどこに行ってもその人が出てくるという形になってしまって、全体的に変わっていかない難しいところがあると思いますが、平均的に4割ということで計画に入って

いますので、これから少しずつ、更に改善されていくと思います。

【委員】

去年の4月に群馬県伊勢崎市から転勤してまいりまして、10か月経とうとしておりますが、群馬県伊勢崎は23万人の人口がおり、那須塩原の倍ですけれども、那須塩原は自然も素晴らしいし、気候も素晴らしいし、夏はとっても涼しいですし、その分冬は寒いですが、とても良い夏を過ごしておりました。地理も素晴らしいし、人も非常に良く、寒い分だけ温泉もあって体も温まるという感じです。なおかつ新幹線もあるということで、非常に素晴らしい場所だと思っています。そういう意味では、シティプロモーションをもっと積極的にやっていただいて、那須塩原の魅力を外に発信していただけたらと思っています。更なるシティプロモーションの充実を図っていただきたいなと思っています。

二つ目ですが、人口減少に備えて企業誘致、重点プロジェクトにも入れていただきましたけれども、積極的な企業誘致を行っていただいて、やはり雇用を確保することが、人口を減らさないことだと思っていますので、積極的に企業誘致をしていただいて、良い企業をたくさん呼んでもらいたいなと思っています。

最後に、新幹線の駅は強みになっておりますので、駅前の商業の活性化と、できればホテルやショッピングモール等の誘致をしていただきながら、なおかつ、教育機関を呼んでいただけますと、更に充実するのかなと思っていますので、那須塩原駅の更なる商業化に積極的に取り組んでいただけたらと思っています。

すべて盛り込まれた素晴らしい総合計画になっておりますので、これを実現していくことが、鍵になっていくのかなと思っていますので、この総合計画に沿って、以上の点を強化していただけると更に素晴らしいかなと思っています。

【委員】

本日は代理で出席させていただいたので、私の思うところということでお伝えさせていただきます。資料の112ページから115ページの辺りが私の関連するところかと思うのですが、現在農業関係では、米については若干需要よりも供給量が多いということで生産調整をしている中で、園芸作物といった野菜関係につきましては、昨年かなり高騰したということについては皆さんご存知かと思いますが、需要が多くて供給が少なかったというところで、私どもで農家さんに野菜を作っていただくというような誘導をしなければならぬかなと思っています。

特に園芸作物の振興という中では、地域特産物ということで、那須塩原市の地域特産物は何かと他の地域で言われた場合に「これです」と言えるような大きな作物は現在あまりないので、そのあたりを今後どう構築していくかということが私どもの使命かと考えているところです。今後とも皆様のご協力をお願いしたいと思います。

【委員】

那須塩原地域で生産される農産物、野菜、乳製品、加工品、全国に誇れる産物が生

産されていますが、その中で、那須塩原ブランドということ、より優れたものが生まれてきてはいるのですが、まだまだ地域の方に食べていただくのが割合的に多くて、いい物をどこに売るかということ、もうちょっと横のつながりを作っていただいて、那須塩原市のPRの一つにつながっていただければよいと思いました。

【委員】

日頃は子育て支援の世界にどっぷりと浸かって生活しているものですから、このように那須塩原市の全体の計画を知ることができたことは、私自身の勉強になりましたし、これから色々な家族と出会う中では、そこを生かしていければなと思っています。

無理して子どもを産む必要はないと思うのですが、今実際に理想の子どもの数と、予定の子どもの数と、実際の子どもの数に開きがありまして、理想の数に実際の子どもの数がだんだん追いつけばいいなというのが何よりの私の願いです。

昨日、私の施設に久しぶりに顔を見せたメンバーがいて、2番目と3番目の子を持ってきて、実はもう一人産みたいんだという話をしていましたので、もう一人産みたい希望があって躊躇しているような家族に対して、こんなことがあれば安心してもう一人産めるよと背中を押せるようなことができたらいいなと、それが私の仕事かなと思っています。

色々な計画がありますが、子育ての世界では今、切れ目のない支援というのが言葉の上ではたくさん言われていて、実際、那須塩原市も重点プロジェクトにあるように切れ目のない支援を一生懸命考えて、色々な施策を打っているのですが、その施策が実際に子育てに追われている親子にはなかなか伝わっていないということがあるので、そこを分かりやすい言葉で私自身も伝えていきたいと思ったり、これから概要版などもできると思いますが、広報などでも分かりやすく伝えていくことが必要だと思います。私も自分の施設でお母さんと話をするなかで広報はよく使っていて、何か話題になった時に「広報の何号にこんな記事があった」と見える形でお母さんたちに提示をしているということがあるので、自治会に入っていないと広報が届かないとかあるのですが、私の施設では、広報で分かりやすい記事があれば積極的に使っているんで、ぜひ広報の仕方を検討していただければと思っています。

【委員】

色々なまちづくりの話をお聞かせいただいて、大変勉強になりました。今回きちんとした将来像が描かれた計画ができあがったということで、今後はこれらをどういう風に取り組みを進めて行くかだと思えるのですが、ここに掲げられている那須塩原市の魅力あるまちづくりを進めるうえでは、人が必要だと思います。今少子高齢化が進んでいるということで、人口が減少している傾向にあります。そうしたなかで、人を定住させる、呼び込むという取り組みにおいて、やはり仕事がないと地方創生が進まないのかなと思います。那須塩原市は栃木労働局と「雇用対策協定」を結んでいますので、連携しながら、雇用の確保に関わらず、働き方改革ということで、皆さんも色々なご意見をお持ちかと思いますが、働きやすい職場づくりを進めていく必要

があるかと思えます。そういったことが魅力ある那須塩原につながりますので、オール那須塩原で取り組みを進めていけばよいかと思えます。

【委員】

黒磯観光協会からの代表ということなのですが、先ほどから観光分野については他の委員がご意見を仰っておられますので、自分の職業のタクシーということで、いわゆる公共交通の一つということで、少しお話させていただきたいと思えます。その前に、総合計画がまとまりましておめでとうございます。私も大変勉強させていただきました。基本的なこと、あるいは具体的、重点的にやること、整理されておまして、大変素晴らしいと思っております。

そうした中で、イギリスがEUから離脱したと、あるいは、アメリカでもトランプさんが大統領になり、本来自由貿易の旗振り役だったところが変わって、そんな中でダボス会議では習近平さんが自由貿易を一緒にやりましょうと、発言が逆じゃないかというような世界の情勢でございます。

昨今、自動運転車の開発を世界中の自動車メーカーが本気になってやっています。ここ数年で、長距離輸送、大量輸送には自動運転車両が実際に運行すると思えます。目まぐるしく、AI、人口知能により世の中が変わりつつあるといった中で、例えば企業誘致につきましても、従来型のものはもちろん必要ではございますが、そういった世界の情勢に対応しうるようなベンチャー企業などの産業も一つの候補にあげていいのではないかと。むしろそちらを重点的にやる必要があるかと思っております。

観光につきましても少しお話しさせていただきますが、様々な機会、足利銀行が「南都北都」もフォローしているわけですが、そういった機会を賜ったうえで、我々自身がそういった中に入って、みんなと力を合わせて、行政の支援を仰ぎながら、我々自身が積極的にやっていくことが必要なんじゃないかなと。他の委員のお話にもあったように、自治会、地域の育成についても行政に頼るということではなくて、自治会の人、地元の人が進んで積極的に、子育てについても、何でも一声掛け運動など、我々が積極的にやっていく、そうした中で、ここに書かれているような計画が実現するよう頑張っていきたいと考えております。

【委員】

私もこの会議に初めて参加させていただいて、那須塩原市の細部にわたることが色々分かって、本当に良かったなと思う反面、これから5年10年とこの計画を実現させていくためには、やはり行政だけではダメだし、私たちがこういう所で話しているだけでもダメだし、やはり住んでいる市民を巻き込んで、上手に、多分この中にも色々なボランティア活動とかやっていたらいい方も多いいと思えます。そういう中で、市のプロジェクトの内容とか、これからこういうことをやりますというような、そういう宣伝等も市民に浸透させていくことで、またその人たちに協力してもらって、市全体で実現していくということが大切かなと思えます。これから5年10年という、今の年齢から足すと高齢者になって、動けなくなってくるような年齢になってしまう

かもしれないのですが、その間にどうにかきちんと那須塩原市が進んでいくようにしていきたいと思っております。

【副会長】

本当に立派な第2次計画ができました。ありがとうございます。

市民の方でも「どういう方向に我々は向っているのか」ということが分かっていない方が多いように感じます。那須塩原市がどういう形でどんな方向に行くのかということが、市民の方にはなかなか浸透していないというのが現状かと思えます。

協働のまちづくりということで、色々な面で協働の施策が書いてありました。本当に皆さんも一生懸命で、まちづくりの団体がたくさんありまして、行動しておられますが、要するに行動するのは市民であるということです。この第2次計画をいかに各団体、市民を巻き込んで進めていくかということが本当に必要だと思っております。

また、我々はこの計画が本当に上手く推移しているか、進捗率とか、上手くいっているか、確認していかなければならないと思っておりますので、何かの機会で審議していただいた方に、もう一度集まって、この辺はどうだったのかなと審議できれば本当はいいのではないかと。要するに市のお目付け役になるということも必要だと思っております。

各分野でまだまだ言い足りないことがたくさんあると思っておりますが、私も商業者という立場において、やはり今、商業者は大変つらい立場になっております。なるべく地元のお店でお買い物していただきたいと思っております。インターネットや通販は確かに安くていい物もあるかもしれませんが、やはり税金は那須塩原市におとしていただきたい。こんな気持ちでおりますので、これからも皆さんと一緒に頑張っていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

【会長】

どうもありがとうございました。

今皆さんから伺ったように、最終の回でございます。この総合計画は、市がここで議論して作ったわけですが、これは市民全体、まち全体の総合計画であるわけで、要するに、これは自分たちの計画だという認識で、今委員の方からも話がありましたが、市民全体がこれは自分たちのものだということで、これを実現していくと、そういうものだという理解をしていただきたい。ご意見もありましたが広報などもどんどん使って、市民全体に、こういった意識や、こういうまちにするということをみんなの共通認識として生きていくということ。それから今お話がありましたが、皆さんはここに参加しましたので、この計画はちゃんとやっているかどうかというお目付け役になるということ。もう一つはこの計画を市民にPRする、そういった役割もあるということを認識していただいて、素晴らしい、よそに誇れる素晴らしい那須塩原にできればいいと思っております。

色々なご意見をいただきまして、どうもありがとうございました。

以上で予定していた議事を終了しましたので、進行を司会に戻したいと思っております。

どうもありがとうございました。

【事務局】

ありがとうございました。

それでは次第の4番のその他ですが、皆さんの方から何かございますか。

それでは、総合計画審議会委員の皆様におかれましては、昨年度から2年間にわたり、基本構想や前期基本計画の策定にあたりまして、ご審議をいただき誠にありがとうございました。審議の中にいただきました貴重なご意見につきましては、基本計画のみならず、部門別計画の策定、あるいは今後の施策展開、事業実施の際に生かしていけるよう各部会、各課にも情報提供を行っております。

また、委員の皆様の任期におかれましては、諮問事項に係る調査が終了する日までとなっております。先ほど皆様にもご了承いただきまして、この後、答申という形で、市長との日程を調整した中で、会長から答申をさせていただきます。この答申をもって任期が終わることになりますが、今後とも那須塩原市政へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

以上で本日の会議を終了させていただきます。委員として2年間ご協力いただきまして、大変ありがとうございました。